

NEWS LETTER

株式会社人財アジア 定期ニュースレター

vol.28

岡村の最近の注目ニュース ビジネス予備校近況レポート B-EAT 会活動報告 What's up?

2023年07月

2023/07

いつ始めても
遅すぎることはない。

毎年この時期になると、 町で就活中の学生をたくさん見かける。

よく就活相談を受けるので、イキイキした学生の中に暗く沈んだ顔を見つけると、「どこかの会社に断られた帰りなのかな?」、「まだ内定を一つも貰えていないのかな?」と感情移入し、心配になる。

内定が貰えないと、自己を否定されたと思いきみがちなのはなぜだろう?

就活は“正解”の決まっているテストではない。入社希望者と会社双方が互いを知り、相性を確認しあうプロセスだ。

(あえて情緒も交えた言い方をすると) 相思相愛になった企業が、現時点での“あなたの答え”である。自分の人生の時間を費やすべき舞台(組織)選択の答は、人それぞれ、人生の局面でも変わっていくだろう。不採用=“正解”を出せなかったと勘違いして、一喜一憂する必要などないのだ。その会社とは互いのニーズが合わないことを確認できたのだから、自分を信じて胸を張り次に進むだけだ。

就活に関わる助言は、“自分とはいかなるものか?”の定義づけから始まる。

自分自身の的確なる言語化は、目線が高く自分を客観視できる証明となる。「私は真面目かつ誠実で…」というありきたりな表現では、自分らしさを掘り下げ表現したことにはならない。実際に、いかにもあなたらしい自己表現を完成できた人は、不思議なほど然るべき企業に就職が決まっていく。余談だが、入社後に間違えた!と早期退社する人も少ないように感じる。

一方で、対人コミュニケーションが器用で要領の良い人が、それだけでいくつも内定を獲得してしまうこともある。その時はみなに羨ましがられるが、長い人生で見ると必ずしも幸せとは言えない。就活を、自分を客観視し言語化する大きな成長機会と位置付けて活用したいものだ。

なぜ社会人の皆さんに就活の話をするのか?

研修をしていると、「講師はいかなる答えを求めているか?」と“正解”探しを始めてしまう人がいる。おそらく会社でも、役員はどう考えているか?部長は?他部門の実力者は?と“正解”探しをしているはずだ。もしかしたら、就活時の器用な成功体験が、その後の成長を阻んでいるのかもしれない。

“考え抜く=自分の答を出す”ということだ。

弊社麻植顧問は、自分で考える喜びを人に任せてしまったら、ご飯を代わりに食べてもらうようなものだという。言い得て妙。人が“正解”を他者に求め続ける限り、常に他者の意向(の変化)を気にしてびくびくしなければならない。うまく正解を当てられずに自信を失っていき様を、頻繁に目にしてきた。

人それぞれ・自分の答えを探していこう。常に自分の答を作りに行く人財には、自ずと自信が漲っていく。考える喜びが、自信をもたらしてくれる。良い事づくしだ。

人財アジアは今年より設立11年目に入った。“市場価値の向上と心の安らぎの増大”という学びの理念を、生徒の皆さんを始め、ご講師陣、社員それぞれが追求してきた。いったん出来上がった言葉にも、思考の積み重ねが新たな意味を吹き込んでいく。本日で寄稿くださった麻植さんは、まさに考える喜びを教えてくださいました。

なぜ歴史に学ぶ

一般財団法人
未来を創る財団

事務局長
麻植 茂 氏



この見送り劇は見事なごぶしの降ろし方だ。参考になる。議長は、後2度考えていると余韻も残した。2度と言ったのは何度でもやるというサイン。インフレ圧力が弱まるタ

対照的な事例がある。ウクライナ事件がひき起こした急激な世界インフレ。米FRBパウエル議長は、2022年2月の0.25%から2023年5月の5.25%まで16カ月間、政策金利の引き上げで断固対処した。以来初めて今年6月、ひき上げ見送った。FRBの失敗は許されない。米国の金融政策は世界を揺るがす。

イムラグを観察している。その間の牽制球である。インフレーションは心理戦、である。どんな局面でも、マーケットにはブルとベアが存在する。マーケットの浅いトレットペーパーだと、行列の長さでパニックの程度が読める。

金融政策は、社会心理学の領域である。絶えず反応を観察しながら政策を決めていく。外野席の我われには、恰好の仮説検証トレーニングの場である。

金融超緩和策とその後始末劇は、歴史であり、仮説検証の現場だ。2008年、米国のサブプライムローンの破綻に端を発した金融危機で、歴史上例を見ない過剰流動性あふれる経済世界が出現した。

同じ2013年、黒田総裁が誕生した。その後の10年、異次元の金融緩和世界をつくりあげ、常態化させた。米国の最初の5年間で、その後の日本の10年間。この時間差は決断力の差でもある。個人の人間の差ではない。決断の問題はそこに到るプロセスの質と時間。トップが意思決定に到るプロセスである。

私たちが日本人は長年、答えのある世界を前提とする教育を受けてきた。答えはあるもの、来るものといつも待っている。金融政策でいえば、中央銀行があるべき解めがけて政策を練り広げる。中央銀行は確固たる信念で動くという前提があった。

欧米の常識に答えはない。それを前提に日々考え、日々行動している。その昔、米国の西部は全てスペインの領土だった。あるとき、西部全域が干ばつに襲われ、東部のNYゴールドマンサックスが融資した。干ばつは7年続いた。返済は土地で行なわれ、西部は全てアメリカ人のものになった。

自分でゴールを見つけます。

自分だけの答えでもいいし 誰かと同じになってもいい

© 北欧式の子ども絵画教室【図工パーク】

先生が決めた 同じゴールを目指します。

もしみんなと同じことができないと... 落ちこぼれ

What's up?



古賀 愛理
Eri Koga
EAT ビジネス予備校
福岡クラス(5期生)
株式会社 lib 代表取締役

コロナウイルスの収束に伴い、観光が再び活気を取り戻しています。特に福岡は韓国からの観光客が多く訪れる場所です。私たちはインバウンドプロモーションを通して福岡の歴史、食文化、福岡の楽しみ方など、魅力的なコンテンツを持つ地域の方々と訪日観光客を結びつける存在として頑張っています。皆様、卒業後お元気に活躍されていることと存じます！私は Next3Years のメンバーとして継続して学ばせて頂いています。また皆で食事いきましょう！

特別寄稿および What's up? に掲載して下さる方を募集しています。ご希望の方は事務局までお問い合わせのほど、お願い致します。